

藤元議員 3点について質問させていただきます。最初に今回の町長選挙についてであります。気持ち的にはこの問題は取り上げたくない、早く忘れたいというのが正直なところですが、町政の最高責任者を決める選挙において重大なルール違反が行われ、5人が逮捕され、今なお捜査は継続中という、牟岐町政史上初めての大事件でありますし、選挙後初めての定例議会でありますので、この問題は取り上げざるを得ないという思いで質問させていただきます。我々が直視しなければならないのは、逮捕された5人のうち1人はほんの数か月前までは町議であったということ、そして、もう1人は現職の副議長であったということであります。町民のみなさんの幸せのために働くという立場に長年身を置き、これからもそんな立場に身を置こうとしていたはずの者が買収容疑という最もやってはいけないことで逮捕されたことについては、大変情けなく、政治に対する信頼を失わせ、愛する牟岐町の名誉を傷つけた罪は重く、十分な反省と責めを負っていただかなければならないと思っております。もちろん、逮捕容疑については個人の責任であります。ただ、現金買収の疑いで逮捕されたということは、渡した人がいればもらった人がいるということでもあります。もらってはいけないことを知らなかった人もいるかも知れません。いけないことは知っていても公にならなければ大丈夫だと思った人もいるかも知れません。また、何時ものことだからともらった人もいるかも知れません。とにかく今の牟岐町には今回の事件を許す土壌が一部にせよあるということが明らかになったのではないのでしょうか。大変残念ですが、そのことを前提に質問させていただきます。町長選は、町政の最高責任者を決める選挙でありますので、候補者としては、牟岐町の現状認識から、有権者に対しこのような牟岐町をつくって行きますというようなビジョン、言い換えれば政策を示し有権者の前で論争する。そして、現職の場合は実績も評価の対象にされ審判を受けるというのが普通の選挙のあり方であります。しかし、今度の選挙は、政策論争というのがほとんどなかったように思います。片方の陣営は、政策というより議員生活で作り上げたパイプを使って政治をやりますと言った、政治手法を強調するチラシを配布していました。そして、議員在職中には口にしなかった海部病院用地造成費のことを取り上げ、盛んに現職町長を批判していました。複数の方から伺いましたが、その陣営の人からは、聞くに堪えないような個人攻撃の演説がされていたようです。候補者によって、選挙のやり方はルールの範囲内であれば自由であり、他からとやかく言えるものではないので行政がどうこうできる事ではありませんが、公選法の壁がありなかなか難しいのですが、青年会や青年会議所などが中心になって、公開討論会や合同個人演説会の取り組みがされているところがあります。牟岐町でもこのような取り組みがあれば、少しでも選挙戦本来の政策論争ができるのではないかと思っているところでもあります。牟岐町の有権者の方々には是非、そのような方法を考えて頂きたいと思っております。そこで伺いたします。町長にとっては2回目の選挙でしたけれども、今回の選挙戦を振り返ってみての感想、今後の選挙のあり方についての見解を最初にお伺いします。つぎに、今回の町長選にあたっての不正行為は一部の者が行ったことではありますが、今後、このようなことを二度と繰り返さないために、行政としてもやれることはやるべきだというふうに考えます。今度の不正選挙に前議員、現職議員2人が関わっていたということで提案したいのが議会終了後の「一杯会」の廃止についてであります。今期も改選後、臨時議会終了後早速

やられています。この議会終了後の「一杯会」は、どのようなことから始まったのか、そして、その目的は分かりませんが、かなり前からやられていまして、私が初当選した16年前にはすでにやられており、悪い習慣だと思っていますが、今日まで続いているわけがあります。私にも毎回議会事務局から出欠の答えを求められますが、この16年余り一度も出席していません。現在の議員の中で出席していないのは私一人だけだと思います。それは、けっして付き合いが悪いわけではなく、行政と議員とがある意味ぶつかり合う議会終了後、仲良く酒を酌み交わすということに意味を見いだせないからです。町執行部と議員がお互いを知り合い仲良くなることは悪いことではありませんが、サークルのうちあげ会ならわかりますが、町執行部と議員です。2元代表制という言葉で表現されていますが、町執行部と議員は、ある意味一定の距離を置かなければならない立場です。今回逮捕された2人の元議員の議員としての自覚と立場をわきまえない行動をみると、その中止の必要性を強く感じます。この「一杯会」の主催者は議会なのか町なのか、それとも両者なのか分かりませんが、町の職員が出欠の確認をとったり送迎に町の車を使ったりと町が関わっていることは明らかであるので町長に質問させていただきます。議会終了後の「一杯会」の目的は何ですか。今回の事件を教訓に、町執行部も議員も、お互いの立場を自覚し襟を正し、自らの仕事に邁進するという意味で今後は止めるべきだと思いますが、どうお考えですか、お伺いいたします。つぎに、子ども議会の実施についてでございます。以前にも提案させていただいていますが、地方自治は民主主義の学校と言われるように住民として政治に関心を持ち自ら積極的に政治に関わることで民主主義の基本理念を学ぶことができるというふうに言われています。今回、牟岐町でこんな事件があり、子どものうちから、して良いことと悪いことをしっかり教育しておく必要があるなど言えば、模範とならなければならない大人が今回のような事件を犯し、子どもたちからお門違いだと怒られそうな気もしないではありませんが、選挙権が18歳に引き下げられたことでもありますし、今回のようなことを二度と繰り返さないためにも、未来を担う子どもたちに議会のこと政治のことを知ってもらう場の提供は意味のあることだと考えます。そこで町長、教育長の考えをお伺いし、次の質問に移ります。つぎに今後の町政運営についてであります。町長は4年前、防災対策と牟岐町再生を大きな柱として掲げ今日までその実現に努力されてきました。まだまだ課題は多いものの、避難所・避難路の整備、保育所や小学校、給食センターの高台移転など防災対策については一定の成果をあげてきたと思います。ただ、牟岐町の再生、活性化の課題については出羽島重伝建の取り組み、空き家対策の条例の制定など努力は評価したいと思いますが、自らも発言しているように町民のみなさんから良い評価を得るという段階には達していないと思います。そこでお伺いいたします。先ほど申し上げましたように、町長は就任以来、二つの大きな柱を掲げ、具体的には、特産品の開発、空き地、空き家の利用、景観の創造、一次産業をベースにした観光の振興、等々の方針を打ち出してきましたが、今日までの到達点、そして今後の課題、今後どのようなことに力を入れて行くのかお伺いいたします。そして、それを実現するためには、行政だけではなく、肝心の町民のみなさんのご理解とご協力がなければ絶対に成功しませんし、そのための独自の努力がいます。何かの機会に申しあげましたが、町長の真意が町民のみなさんに伝わっていないという実態があります。自ら住民の所に足を運び理解を求める

などの努力がいるのではないのでしょうか。課題実現のための手法、方策をどのように考えているのかをお伺いし、つぎの質問に移ります。つぎに空き家対策についてであります。平成25年9月に景観の保全と安全で暮らしやすい町づくりの推進に寄与することを目的に「牟岐町空き家等の適正管理に関する条例」が制定されました。そして、空き家対策特別措置法が本年5月26日に施行されました。これで、自治体としては危険な建物等の撤去がしやすくなったわけであります。実は、この空き家対策について平成24年12月議会で取り上げたことがありました。当時の総務課長は、平成23年の調査では、町内に177戸の空き家があり、そのうち1戸の所有者は賃貸・売却の意思があり、検討中が8戸、43戸が自己活用すると答え、残りの125戸については所有者と連絡がとれないと答弁しました。条例を制定してから2年近くなりますが、その後の成果はどうなっているのかお伺いいたします。つぎに危険な建物等は壊すことも必要ですが、町の活性化のためにも使える建物は有効活用することが大切です。有効利用の取り組みの状況と成果をお伺いし質問を終わります。

枅富議長 福井町長。

福井町長 藤元議員の質問にお答えいたします。まず、今回の町長選挙について申し上げます。元来、人により理想とする政治家像は異なることから、選挙の目的は、立候補者の中から、町民の皆様の最大幸福を実現できる人を選ぶことだと思っております。したがって、候補者が、それぞれの施策を練り、その実現性の可否や効果について、町民の皆様に訴え判断を仰ぐのが選挙だと思っております。もちろん、その前段として、首長としての課題解決能力や人柄や体力も必要だと思っております。したがって、選挙においては、これらを総合的に町民の皆様が判断できる材料を提供することが必要です。それが、選挙公約やチラシであり、選挙演説であり、公開討論であろうかと思っております。今回は、この最低限必要な選挙公約などの議論ができず、これまでの付合いや義理を主たる活動方法とするなど、旧態依然とした手法で争われたことが本当に残念だと思っております。私は、とにかく、意欲のある人なら誰でも立候補できる金のかからない選挙であって欲しいと思っております。最も効率的で、経費もかからない一つの方法として、各コミセンごとに、各候補者がチラシなどを元に、施策の説明をして回ってはどうかと考えています。つぎに、町執行部との一杯会の開催についてですが、これは、随分前からお互いの親睦を図るために行われていると聞いています。議員ご指摘のとおり、確かに町民の皆様からは、なれあい政治を助長すると思われるかも知れませんが、全ての議員さんと幹部連中が一堂に会して行うのですから、私は、町の寄合同様、あまり神経質になる必要は無いと考えています。私は、それよりも、例えば、職員倫理条例を設け、議員の方だけでなく町民の方も含めた『はたらきかけ防止規定』のようなものを規定する方が効果的ではないかと考えています。懇親会の必要性については、今後、議員さんの間でもご議論いただきますとともに、我々行政側も是非を検討したいと思います。つぎに、今後の町政運営について申し上げます。防災対策と牟岐町再生について、その到達点と今後の課題、そして課題実現のための手法についてとのことですが、先の所

信でも少し触れましたように、防災対策は、際限なく続くことになると思いますが、学校と保育所の高台移転が完了し、病院も高台移転に向け工事中ですので、一応の私の考える到達点といたしましては、役場の耐震と津波対策、そして、住宅の耐震化、さらには、豪雨対策としての地区ごとの避難所の設置が到達点かと考えています。また、牟岐町再生についてですが、人口の減少に歯止めをかけるべく、まずは雇用を増やすための施策を実施していく必要があります。今年度から、総合戦略計画を策定し、来年度からPDCAサイクルにより実行していくこととなります。具体の手法は、実際に、行動するのは町民の皆様ですので、皆様のご意見をいただきながら、実効性の高いものにまとめて参りたいと考えています。私といたしましては、まずは、一次産業の再生とその六次産業化、観光との連携、健康産業との連携を図って参りたいと考えています。そして、一次産業の再生には、法人化が重要になると思います。JAや民間企業と連携し、一次産業に取り組んでいただくことが必要であると考えています。また、差別化や付加価値を高めるためにも、観光振興が重要です。現在、牟岐町には、観光資源と胸を張れるものはありませんが、出羽島は昔の町並みに戻すことができれば、立派な観光資源になります。この他に、牟岐町には、内妻、灘のサンラインなど素晴らしい景観の場所がたくさんあります。しかも、これらは全て歩いて回れるという非常にコンパクトな町、牟岐町です。保養と健康の町牟岐町として、ウォーカーやランナーが集える町としたいと思います。一方、移住者の住まいを提供することも重要です。後に申し上げますように、空き家の有効活用も大きなテーマでございます。空き家の管理組織を立ち上げていただき、希望者には何時でも空き家を紹介できる体制を整えたいと考えています。つぎに、引き続き、空き家対策について申し上げます。まず、牟岐町のいわゆる空き家条例ですが、これは、危険空き家の適正管理を、所有者等に促すために策定した、主に啓発を目的とした条例ですが、現在、この条例を使い、是正指導や強制撤去した案件はありません。また、議員ご指摘の空き家の有効活用ですが、平成23年度に空き家調査をし、空き家の所有者に、貸して頂けるようお願いをいたしました。が、当時は、ほとんど貸して頂ける空き家はありませんでした。現在、地域おこし協力隊も賃貸の可能な空き家について調査をしていますが、現時点では十分な成果は上がっていません。空き家の有効活用は、観光資源の少ない牟岐町にとり、貴重な観光資源でもあり、先程申し上げましたように、町の創生には欠かすことのできないものと考えていますので、これも現在進めている地方創生計画の中で、確実に実行していけるよう位置付けて参りたいと考えています。-

枅富議長 峯野教育長

峯野教育長 私の方からは、子ども議会の取り組みについてのご質問にお答えします。ご承知のように、一昨日、選挙権年齢を現行の「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げる公職選挙法が参議院本会議で可決、成立しました。来年、夏の参議院選挙から適用される見通しとなり、若者の政治への関心を高める主権者教育の施策や取り組みが、これま

で以上に求められています。そのような中、牟岐町の未来を担う子ども達が町政に対する質問や提案をすることを通して、政治と生活の係わりや、議会運営の基本的な仕組みを体験的に理解し、地域社会の一員として町づくりに関心を深めることは、有意義な活動であると考えています。子ども議会の取り組みや当然のことながら、教育委員会だけの問題でなく、町長部局との連携や議会事務局の協力を得ることが必要となります。また、事前準備や指導に時間がかかることなどを考えると、学校の負担や意向等を考慮することも必要です。本年度は、小中学校とも年度当初に策定した年間計画に沿って、教育活動が進められていますので、子ども議会の開催は難しいと考えますが、今後、子ども議会の開催が可能かどうか、その意義や効果、また、問題点等々を関係者と協議してまいりたいと考えています。

枅富議長 その前に懇親会の出席に町の車は使っていないので、よろしくご理解お願いします。藤元議員。

藤元議員 それは、すいません。私、全然参加していないもので、車が迎えに来るという話を聞いていましたので、てっきり町の車を使っていると思っていました。それは訂正します。先ほどの町長の答弁では、一杯会のことですけれども、親睦を図るためにやってきたらしいという話で、それほど神経質になる必要はないという話がありましたけど、これは非常に認識不足だと思います。今度のこの事件で本当に牟岐町の住民が町外に行って、そのことを聞かれて、本当に悔しい思いをしているという話を何人もの方から聞きました。ちよくちよく徳島新聞に載っていますので、随分成り行きを気にして、この事件を注視している人もたくさんいます。二度とこういうことを繰り返したらいけないということで、親睦でやっている話でしたけど、親睦を図るのならいろんな方法があるのです。お酒を飲まなくても会を開いて十分話し合いをすれば親睦を図れるのです。こういう二度と起こさないという認識が足りない。今の答弁から神経質になる必要がないと。それは間違いだと思います。もっと神経質になって欲しいです。それも行政の今、当面の大きな仕事だと思います。町長、記憶があるかと思いますが、今度、逮捕された一人の方が議会で私は言ったことをよく覚えているのですが、私はよく覚えていないけども、10期もやっている人ですよ。3回か4回目だと思いますけど、一般質問しますと、それで私は7人の町長に仕えてきた。こういう発言を堂々としてしました。私は本当に何を考えているのかなと、本当に長年やっっているながら、議員の認識、立場というのを全然わきまえていないなと自分では

思いましたけどね。それからこういうことを起こしているわけです。今回の事件ね。もっと神経質になって欲しい。親睦を図るなら、先ほども言いましたけども、いろんな方法があります。酒を一杯やらなくてもできます、それは、そういうことをやったら町民に誤解されます。ということで、これは町執行部と議会ですから、町執行部が止めますと言ったら止まるのです。だから、それは今回の事件の重大性から決断してください。そんな大げさな問題ではないと思いますよ。止めますという、それで済む話ではないですか、何の難しい話もない、それができませんか。再問いたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 藤元議員のご指摘ですけども、今、今回、選挙で問題になったのは、買収だったということなのですが、これは町職員と議員の皆さんが親睦を図ることと、殆ど縁はないと私は思っているのです、そのように申し上げたのです。現在やっている懇親会ですけども、これは殆ど表面的というか、できるだけ関係者というか、多くの方が集まっただいて、牟岐町をより良くしていくために議員さんと行政側が連携してやっていこうというふうな主旨だと思っています。馴れ合いを助長するという目的ではないと思っていますので、とにかく意思の疎通を図って、もちろん、議員さんのご提案をいただいたものを行動に移していかなければいけないわけですから、そこらも十分連携しながらやっていきたいということでやっているのだと思います。懇親会をやったから買収があったというふうには私は考えていないので、そのように申し上げましたが、意見の相違があったらおっしゃっていただきたらと思います。

枅富議長 藤元議員。

藤元議員 一杯会をやったから買収事件が起こったのではない。それはそのとおりです。けどもこれは、議員の自覚、立場をわきまえていないからこういう事件が起こるのです。ずっと前の話ですけど、町長と議員が飲み会で喧嘩したことを聞いています。福井さんではないですけどね。そういうこともあるし、それこそ仲良くなって職員と議員さんが仲良く、仲良くなる自体は私は否定しませんけども、仲良くなって、例えば、こういうことで追及もしなければいけないのだけど、止めておこうとか、こういうことにつながっていくわけですので、そういうことは止めたらいいのです。親睦を図る、先ほども言いました

けど、幾らでも方法あります。そんな酒の席でなくても、この際、大きな事件を起こして、これはまさに議員の自覚、立場をわきまえていないから起こったのです。一杯会をやったからでは、もちろんありませんけども、今後二度と起こさないためにも町が止めますと言ったら止められることですから止めたらどうですか。明日新聞に載るかも知れませんよ。私が止めたらどうですかと言ったら、いや違いますと言って、変な町長だなということになるではないですか。本当ですよ、冗談でなしにほんまに、当たり前のことですよ。これだけ事件を起こして、まだこういう馴れ合いを生む一杯会をやるというのですから、問題ですよ。この際、もう一度答弁を求めます。はっきり止めると言ってください。

枡富議長 藤元議員さん、この件については、議会でも話をしませんか。

藤元議員 それは話をしたら良いと思いますけど、町がやれることを質問しているのです。

枡富議長 これは強制的なものではないのです。懇親会、藤元さんが出席していないように、理事者の方も出席できない方はしていません。それをそこまで言う必要がないのではないかと思いますし、また、議員の中でも相談しませんか。

藤元議員 必要あると思います。

福井町長 今回の懇親会、これまで4年間ずっと参加させていただいて、議員の方も藤元さん除いて殆ど参加されました。そういう中で今回、私の対立候補の方が立候補されて、議員さんの中からですよ、それを応援された方も何名かおいでということ、何も癒着はあるとは、私自信は思っていないのですが、年に1度か2度ですから、これで非常に仲良くなって議会の質問をしにくくなるということもないように思うのです。ただ、例えば、今回、新たな町会議員さんも出られましたけど、こういう方ができるだけ多くの方と顔見知りになっていくことが重要なことだと思っていますので、ベテランがいつも顔を突き合わせているということは問題かも分かりませんが、今後、慎重に考えることではないかも分かりませんが、一応、この場では結論を出すのを控えて、後で考えてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

藤元議員 もう1回いけるのですか。

枅富議長 同じ繰り返しですので、また、議会の方でも相談したいと思います。

藤元議員 議会でもしたら良いと思いますけど、町ができることで質問したわけです。両者がやっているわけですから、町が止めますといたらできないわけですので、こんな事件を起きながら、町長、のんびりしすぎていますよ。もう少し緊張感を持ってやられた方が良いと思います。意見を述べまして質問を終わります。